

## 慢性肝炎の肝癌反応陽性例について

(今後、農村における肝炎の疫学的調査との関連について)

富山市 北川内科クリニック 北川 鉄 人

厚生省の統計では、本邦における富山県の癌発生率は特異的であるといわれている。特に男性では、胃癌について多いのは、原発性肝癌である。世界における日本人の癌発生率が何故に多いのか、日本でも環境のよいことで有数といわれるこの富山県にどうして癌の死亡者が多いのか、その疫学的調査研究には当然、農村に向けられねばならないと考えられる。富山県農村医学会では、すでに肝炎の農村における統計学的調査をおこなっている。

肝癌は、周知のようにB型肝炎との関連において鋭敏な肝癌反応、例えば $\alpha$ -フェト蛋白(AFP)を頻回に検査することにより、微小肝癌をかなりに診断されるようになってきた。このような肝癌は手術により治癒させ得るものもある。肝癌の疫学的研究の一つとして、富山県の農村における人達にその疫学的調査とあわせてAFPのような癌反応を調べると癌の発生に関して興味ある問題を提示するかもしれない。

一方、私共は、最近肝臓病患者にAFPを頻回に調べていますが、癌でない患者にも癌反応が陽性になる症例にしばしば遭遇する。その意味についてはここでは追求しないが、昨年4月消化器学会で発表した症例で、明らかに肝癌反応が強く陽性であるにもかかわらず現在もきわめて元気であり、その反応(AFP)が現在も継続している症例をここに簡記する。

図1では1昨年7月から昨年の4月までの

図1

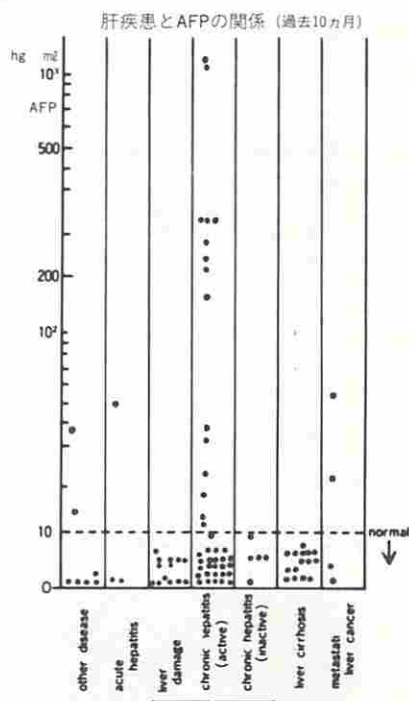
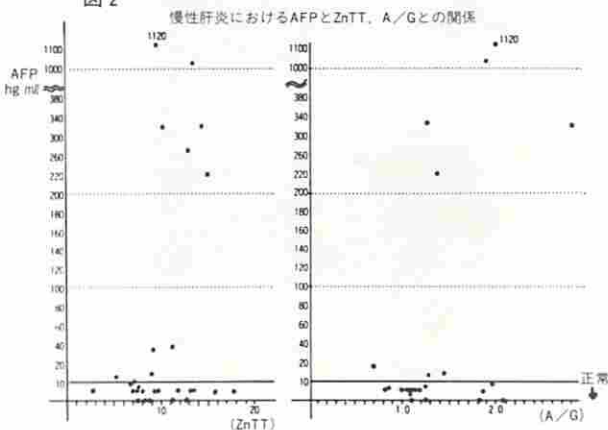


図2



10ヵ月間、肝疾患とAFPをプロットしたものである。

AFP10以下は正常で、私の症例では慢性肝炎にAFP⊕の肝炎が目立ち、肝硬変では、まだ、癌発生例を見ていなかった。慢性肝炎の非活動例では全例陰性であった。

慢性肝炎におけるAFPと最も相関するといわれる肝機能検査のうちのZnTTとA/Gの関係を見ても何の相関もみられなかった。(図2)

症例：表1に示すように62才の男性で20年前の輸血後肝炎後、慢性肝炎となったものと思われる。

表1

AFPが異常高値を示した慢性肝炎の症例

患者 尾○美○次 62才 男  
 既往歴 昭和43.46 外傷性頸部症候群  
 昭33 胃潰瘍の手術、肝機能異常⊕、輸血⊕  
 昭47 健診にてGOT、GPT50-60台、 $\gamma$ -GTP160  
 昭49.3-昭51.11 某内科でラエンネックによる治療  
 昭50.7 ICG18%<sub>15分</sub>  
 現病歴 昭51.11末より当科にて治療  
 昭52.5.30-9.2入院治療  
 最近の検査成績(昭和52.4)  
 ・HBS-AG 364CPM(<442normal)  
 Anti-HBS 226CPM(<532)  
 AFP320.0  
 IgM 154mg dl、IgG15.20mg dl  
 TP7.5、Alb56.3、 $\alpha_1$ -G2.8、 $\alpha_2$ -G8.7、 $\beta$ -G11.2、 $\gamma$ -G20.8  
 LDH400、LAP239、 $\gamma$ -GTR112  
 ・胃・腸・大腸レントゲン検査、正常



図3 肝スキヤン

胸部、胃腸などのレントゲンなどは異状はまったくない。

肝スキヤン(図3)では異常ない。腹腔鏡(図4)。左葉Motley liver、右葉は異常なし。

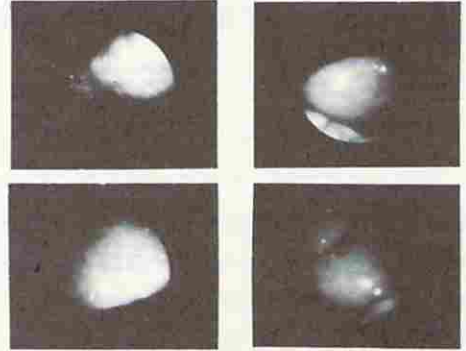


図4 腹腔鏡



図5 選択的肝動脈造影

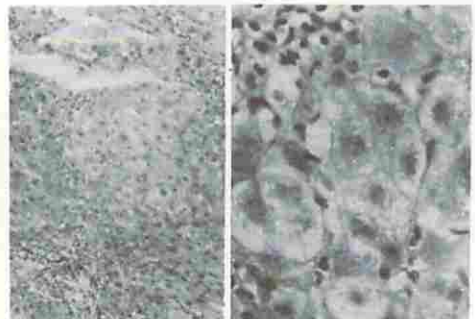
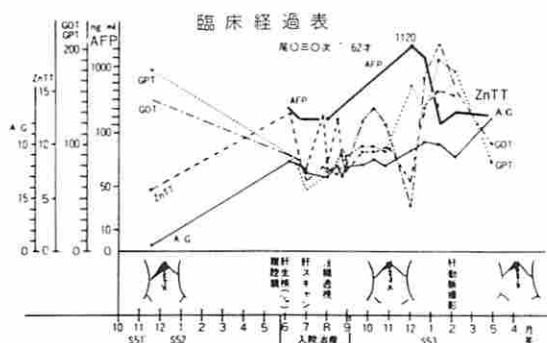


図6 肝生検組織所見(H E 染色)

図5 選択的腹腔動脈撮影、肝・脾の動脈には異常はない。

肝生検組織(図6)で、グラーは繊維性に拡大しP-C結合、P-P結合が見られる。実質ではSingle cell, focal necrosisが多発しているが両生細胞が明瞭である。しかし、Anthonyらの云う初期肝細胞癌に見られるようなdysplastic cellは認められない。この症例はHB抗原のオルセイン染色は陰性。(図7)は臨床経過表でこの患者ではAFPが1,000ng/ml以上まで上昇しましたが、治療により肝機能の軽快と共に下降し、この表にはありませんが54年では、肝機能の軽度の悪化に伴い700ng/ml台を保っている。患者はきわめて元気に仕事をしている。



### ま と め

癌が日本的に多いと云われる富山県で、農村地区における調査研究が意味があるように考えられ、その一部として原発性肝癌の調査には肝炎の疫学的調査研究から始めるのは有意義であろう。今後、鋭敏な肝癌反応の一つ、AFPも調査されるかもしれないが、AFPが陽性例で肝癌が見つからない症例、慢性肝炎でAFPが変動する症例も経験したので報告した。本症例のようなものは最近の報告でもときどき散見されるようになっているが、肝細胞の再生能とAFPとの関連性や他の癌タンパクの問題について興味ある問題があると考えられよう。このような症例については、AFPをさらに追求する研究や $\gamma$ -GTP アイソサイム $\beta_2$ -microglobulinなどの研究に期待されるであろう。

(本症例は昭和53年、第35回北陸消化器病学会に発表した。)